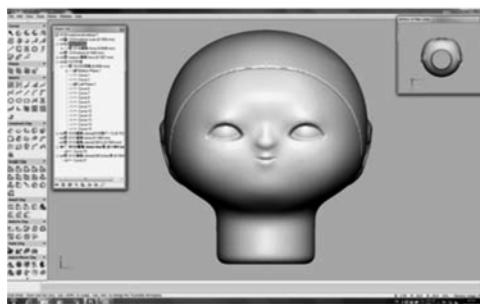


# 3Dプリンターで ひな人形



ひな人形の製造は、職人が作つた顔型をもとに右こうを使って人形の顔を作る前工程と、前工程で作つた顔と体をつないで仕上げる後工程に分かれる。前工程で職人が作る顔

ひな人形の顔を3Dデータを使い改良する編  
集ソフトの画面

## ふらここ

日本人形を製造販売する「ふらここ」（東京都中央区、原英洋社長、03・6231・1359）は、ひな人形の製造に3Dプリンタを導入した。通常、ひな人形の顔の型は職人が一個一個手作りするため同じモノは再現できない。この型をスキャンして3Dデータ化し、3Dプリンターを用いて同じ表情の顔を再現可能にするほか、データをもとに顧客の要望を新製品に反映するのが狙い。原社長は「既存の概念に縛られないお客様の声を反映したひな人形を作りたい」と語った。

## 同じ表情の顔 再現

### 顧客の要望 柔軟に反映

型は一品限りで、修正や再現が難しく、顧客の要望を新たな製品に反映するのも難しい。

同社では前工程で職人の作つた顔の型を3Dデータで記録。再現性を持たせ、3Dプリンタを活用して顧客の声を柔軟に取り入れて顔型を改良する。後工程は職人の領域だ。

価格は、男びな女びな2体1セットの親王飾が7万円（消費税抜き）から。3Dプリンタを使ったひな人形の販売目標は2017年9月末までに100トセツ、1億3000万円。

が、伝統工芸と技術革新を組み合わせて新しいひな人形の世界を生み出すことを目指す。

同社は2008年に創業。インターネットのみで販売してきたが、より幅広い層にアピールするため9月中旬にショールームを開設する。同社内に開設する。日本政策金融公庫渋谷支店は同社に「新事業活動促進資金」として4900万円を融資した。